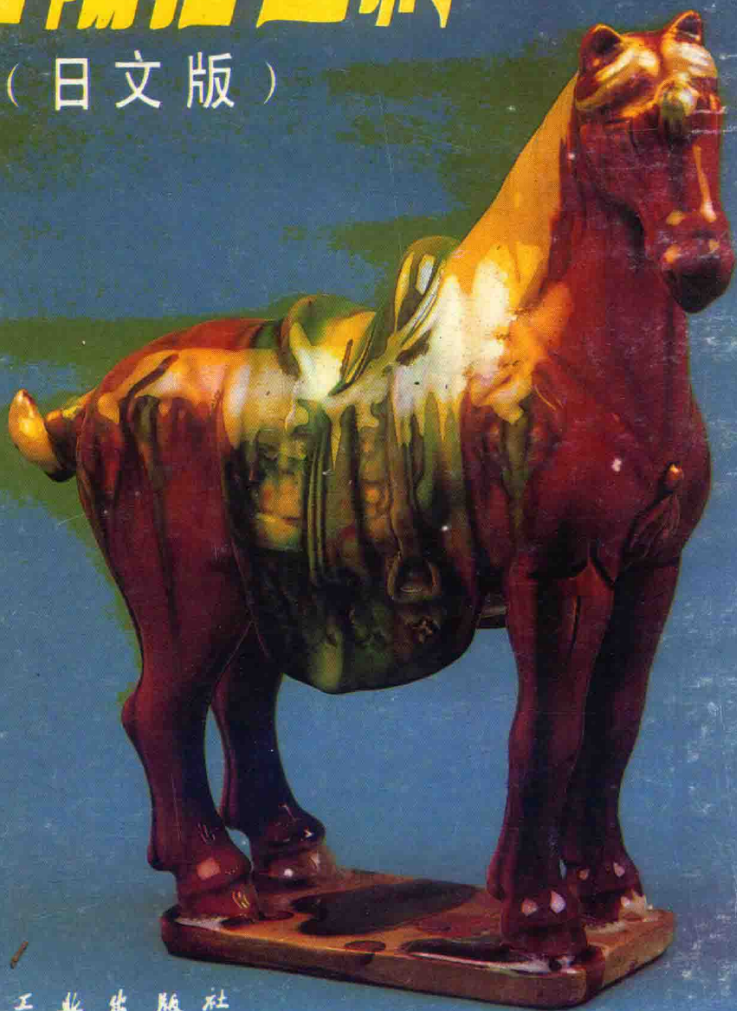


洛陽唐三彩

(日文版)



輕工業出版社

洛陽唐三彩

(日文版)

高副东 王元朋 刘奔波编著

轻工业出版社

洛陽唐三彩（日文版）

高副东 王元明 刘奔波 编著

*

轻工业出版社出版发行

（北京广安门南滨河路25号）

北京外文印刷厂印刷

*

787×1092毫米1/32印张：3 4/32插页：4字数：55千字

1989年4月 第一版第一次印刷

印数：1—10,000

定价：2.30元

I S B N 7-5019-0517-7/J · 030

はしがき

本当の芸術には、永遠に人を引きつける魅力がある。洛陽市美術陶磁廠が生産している「九都じるし洛陽唐三彩」は、天下に聞える洛陽の牡丹と同じように、早くから世界中に知られ、賞讃され、「芸海の明珠」、「華夏の光り」、「中国の誇り」とたたえられている。

洛陽美術陶磁廠の製品展示室に入ると、色とりどりで姿態の異なる種類の唐三彩製品に引かれ、美しく色どられた芸術の王国に身を置いている感じがするであろう。

姿の優れた唐三彩の駿馬は、或いは目を見張って静かに命令を待ち、或いは始めて征途に登って得意満面であり、或いはたてがみをなびかせて勇敢に戦い、或いは飛び上って山を越え谷を越え、或いは首を挙げて凱旋し、或いは首を下げて脚を噛みながら征战の楽しみを思うが如く、或いは悠然自得として漫步している。生命があるような見目麗わしい舞伎ききょうは、或いは指で弦を撫でて音が出る如く、或いは琵琶を抱えて姿が美しく、或いは羞らい、或いは舞うて無限の心声を訴えているようである。胡商（西域人）俑は、中国の絹織物を満載らくたしている駱駝の背に跨り、悠然と琵琶を弾いている。長い長いキャラバンはリズムカルな鈴の音の響く中で、白草黃沙を踏みながら悠長なミルクロードの上を行く。新しく創作された三彩壁画「少林寺一三の棍棒を使う僧が唐王（唐の太宗皇帝李世民が即位

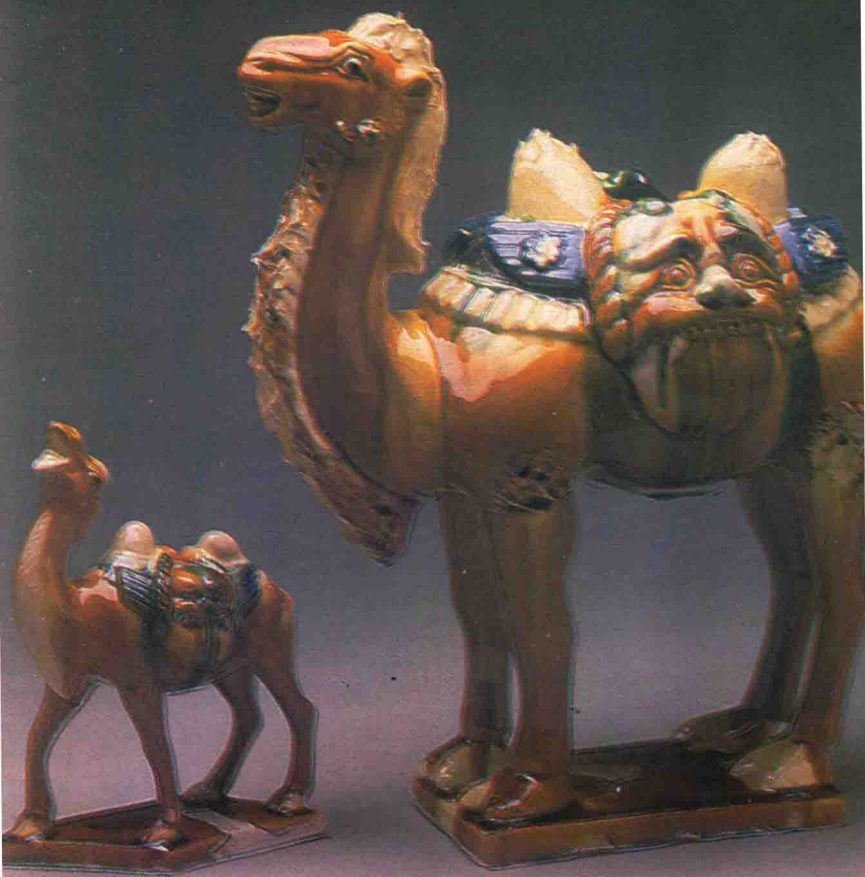
する前の通称」を救う」、「伎楽天」、「斗牛」及び各種各様の三彩鉢・瓶・杯・壺・罐等も異彩を放っている。

国内外で洛陽唐三彩は、已に一般家庭の裝飾品や最良の贈答品となっている。机の上に唐三彩の馬や駱駝を飾って置くと、部屋の中が輝きを増して来るであろう。中外の来客は、洛陽に来られると洛陽唐三彩に引きつけられて必ず洛陽美術陶磁廠を見学し、帰りぎわには唐三彩をお土産に買って帰るのを喜ぶ。

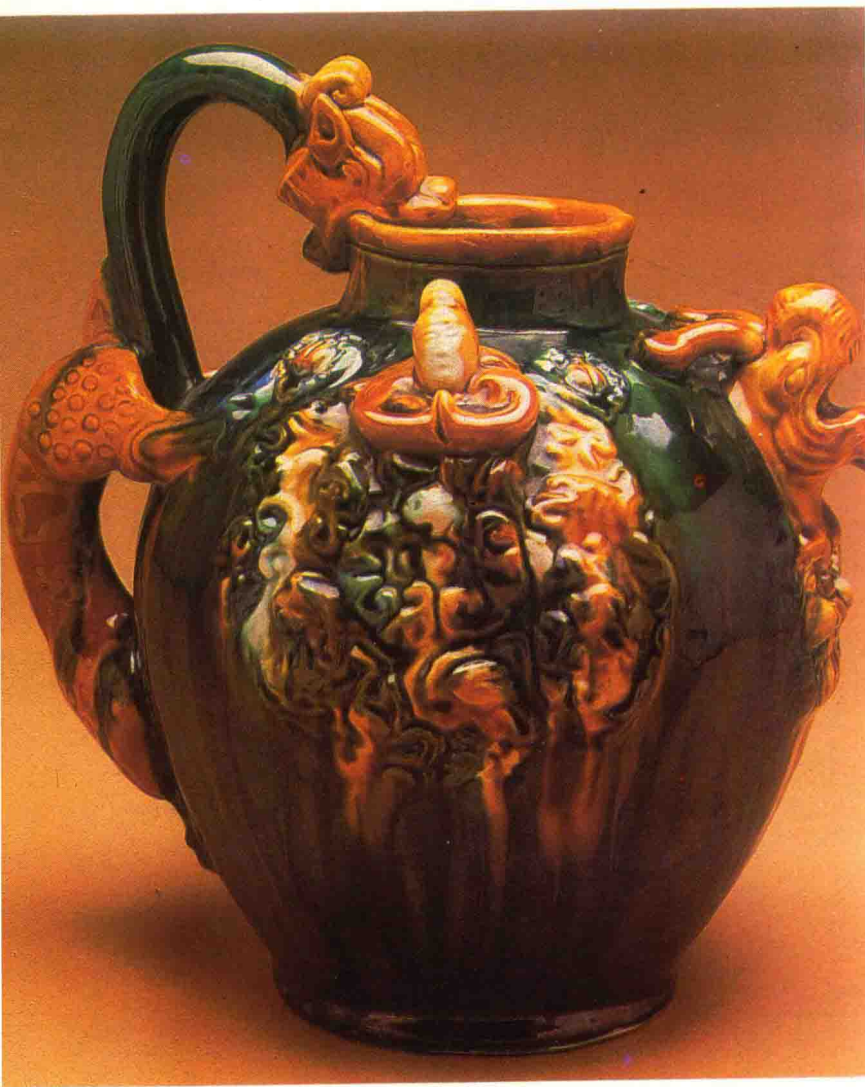
年来、九都じるし洛陽唐三彩は同類の製品の品評会で何時も優れた成績を納めている。一九八三年九月に又国家の授ける品質獎の金メダルを獲得した。それより九都じるし洛陽唐三彩は一層有名になり、北京・上海・広州及び多くの国家と地区で唐三彩ブームを引き起している。



敦煌仕女·胖妞



走驼·驮包骆驼



龙 罐



六 骏 马

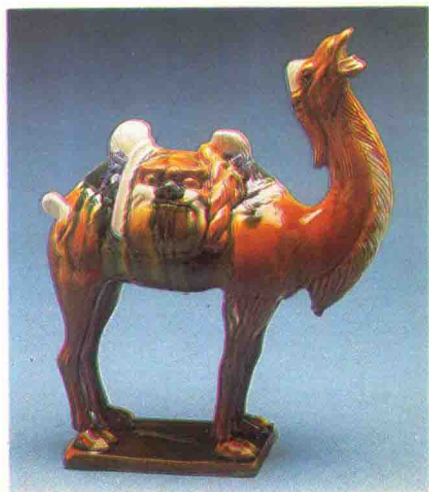


丝 绸 之 路

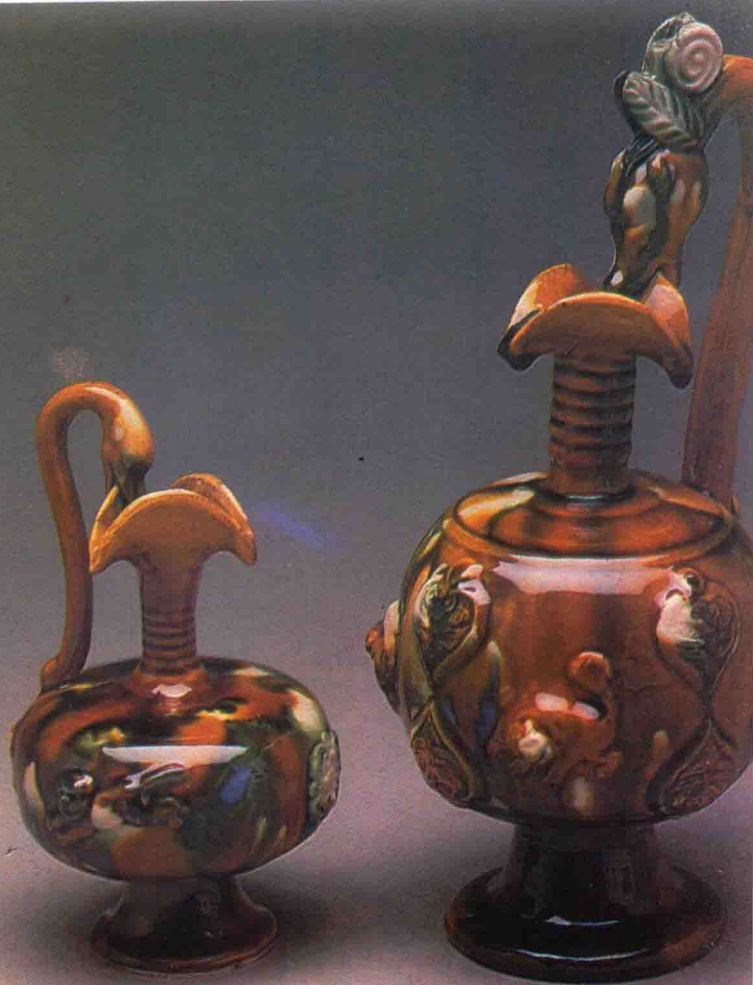


乐俑骑驼

黑釉披鬃静大马



朝天驼



单龙樽

一号双龙樽



双龙壶

目 録

はしがき……………

一、洛陽唐三彩の由来……………(一)

二、九都じるし洛陽唐三彩……………(二)

(一) 模造唐三彩の始り

(二) 九都じるし洛陽唐三彩の起り

(三) 積極的に改革を進めて金メダルを獲得

三、洛陽唐三彩の名は天下に冠たり……………(三)

四、洛陽唐三彩を讀える……………(四〇)

(一) 新聞切抜き抜

(二) 詩

(三) 書画

五、名作鑑賞……………(八四)

一、洛陽唐三彩の由来

一九世紀末、わが国の近代史に大きな出来事があった。清朝の徳宗光緒二十五年（西暦一八九九年）に隴海鐵道が洛陽に届いたのである。当時、唐代の古墳から多くのきらびやかな各種各様の三彩の馬・駱駝・人物俑や日用の陶器が出土し、人人は驚異の眼を見張った。この事はすぐ洛陽にいる古董商人達の注意を引き、彼等はこれらの出土三彩器物を北京に運び、古董商や専門家の鑑定を依頼した。中国の著名な金石家である羅振玉や王国維は、これらを高く評価し、そしてその色彩の特色から洛陽唐三彩と命名した。外国の一部の古董商人や古董愛蔵者達がこのことを聞きつけると、争って大金で買い出したので、洛陽唐三彩の名は世界中にとどろくようになったのである。

実は光緒六年（西暦一八八〇年）洛陽の北邙山（はくほうざん）の古墳から已に最初の唐三彩が出土していたが、その時は別に国内の古文物界の注意を引かなかつたので、あまり人に知られなかつた。李健人は一九三五年に出版されたその著『洛陽古今談』の中で次のように書いている。「陶器は（洛陽から）最も多く出土している。人物・馬・牛・飛獸・碗・盤・壺・罐・井戸いど・臼・かまど等がある。或いは素焼であり、或いは色釉しきゆうを施しほどこ、品質は上乘で美術的価値を持つている。時代的には漢・魏・隋・唐・宋といろいろある。中でも興味を引

くのは唐代の副葬品である人物と馬である。その人物は、例えば婦人の衣の襟は皆折り返しており、今の洋服のようである。皆纏足をせずに胡靴を穿き、馬に跨り、風致瀟洒にしてプロポーションが美しく、決して今日の女性のように風に揺ぐ柳のような弱弱しさはない。そして馬も背が特に高く、今日の馬とは違う」、これからも一八八〇年から一九三五年までの間に、洛陽唐三彩の出土の量も品種も非常に多く、已に注目されていたことがわかる。

唐三彩はその名前からもわかる様に、唐代の色釉陶器である。ここで言う「三」とは、もともとあまねく多数を指すのである。洛陽博物館で見かけるペルシヤ商人俑や商人俑は黄・白二色、鶏頭壺と碗は緑・赤土二色、そして俑は赤・緑・黄・白四色、馬と駱駝は赤土・緑・藍・白四色である。洛陽の関林（関羽の首塚）にある展示室には、緑・白・黄・藍四色の唐代の食物を入れる陶罐が二点ある。これらは、すべて「三彩」が多彩を意味していることを充分に説明している。いわゆる「三彩」とは、実は単彩に対して言うのである。わが国古代の陶器は素陶と彩陶の二種に分かれ、唐代以前、彩陶は多く単色陶であつた。唐代になってから特色のある三彩陶が突然現われ、そのさんぜんたる色彩、生けるが如き造形、巧みな工芸によつて、わが国の製陶業を全く新しい時代に発展させ、極めて高い水準にまで押し上げた。釉について言えば、その顕著な標識は即ち単彩から多彩への躍進である。唐三彩の偉大な意義は、それが一つの時代——政治安定・經濟繁榮・文化

興隆の時代を代表していることにある。唐三彩は赤・緑・白又は緑・黄・藍の三色を主とするから左様に命名されたのだとい人もいるが、その実それは的確ではないのである。

唐三彩は已に一、三〇〇年以上の歴史がある。それが世に喧伝されるのは、わが国の歴代工芸品の良い伝統を受け継ぎ、絵画・石彫・木刻等の姉妹芸術の長所を取り入れ、広く転写・貼付り・彫刻等の裝飾図案を取り入れ、新しい民族芸術を打ち建て、唐代彩釉製陶技術の独特な風格を創り上げたからである。中国の陶磁史上、唐三彩は芸術の園に咲く名花のように独特な地位を占めている。その芸術的な特色は、造型が典雅優で莊重古拙、形象は生けるが如く神韻を伝え、線が自然流暢で瀟洒しやうしやであり、けんらん多彩で生活のいぶきに富んでいることである。これらの特色は顯著な時代的特色と民族的風格を表わし、芸術的に盛唐の氣象を再現している。馬や駱駝等は体格が壯健であつて遲鈍ちどんでなく、筋肉が発達していて肥満な感じを与えない。生き生きとしている侍女・樂伎・舞伎の姿は豐満であつた。更に巧妙なのは、唐三彩の焼物師達が施釉せゆうに独自の工夫を凝らしてわが国独特の流しがけの工芸を創造したことである。即ち、焼成の過程で、色釉が自然に流れて互に配合するようにし、色彩に潤いを与え、線に丸味を持たせて、特有の芸術的な美しさを出し、わが国古代彫塑ちようそく芸術の高い成果を現わしている。

唐三彩は唐代製陶業の最高の成果を代表し、これらの芸術的精品は多くの面から当時の各階級・各階層の生活現実を反映している。それは唐代の歴史と中国陶磁史を研究するの